

令和6年10月 総合教育会議 議事日程

1 日 時 令和6年10月9日（水）午後2時00分から

2 会 場 伊予市役所5階 委員会室

3 出席委員

伊予市長	武 智 邦 典
教育長	上 岡 孝
教育長職務代理者	矢 野 ひとみ
教育委員	高 橋 久美子
教育委員	長 見 美 保
教育委員	上 田 晃 義

4 会議に出席した事務局職員

事務局長	窪 田 春 樹
学校教育課長	谷 仲 寿 夫
学校教育課指導主幹	山 口 定 伸
学校教育課指導主事	谷 岡 淳
学校教育課課長補佐	田 中 富 美
学校教育課課長補佐	中 塚 正 洋
学校教育課課長補佐	赤 石 雅 俊
学校教育課	
学校給食センター所長	武 知 齊
社会教育課長	小笠原 幸 男
社会教育課課長補佐	田 窪 幸 司
社会教育課課長補佐	伊予岡 一 幸

5 協議事項等

- (1) 学校施設の再配置・複合化に関する計画の検討について
- (2) コミュニティスクールの推進について
- (3) 部活動の地域移行について

午後 2 時00分 開会

○窪田事務局長 定刻になりましたので、ただいまから、令和6年度第1回伊予市総合教育会議を開会いたします。御起立をお願いします。一同、礼。御着席ください。

はじめに、武智市長からご挨拶を申し上げます。

○武智市長 あいさつ

○窪田事務局長 続きまして、協議事項に入りますが、伊予市総合教育会議設置要綱第4条の規定により、市長を議長といたします。以下の協議につきましても、武智市長の進行で、よろしくをお願いいたします。

○武智市長 会に先立ちまして、本日の伊予市総合教育会議に対する傍聴要望はありませんでしたので、ご報告いたします。

早速ではございますが、協議事項に入らせていただきます。

協議事項(1) 学校施設の再配置・複合化に関する計画の検討について、事務局から説明をお願いいたします。

○谷仲学校教育課長 伊予市の人口減少、特に中山、双海地域の児童生徒数が今後急速に減少していくことが予想されており、「学校の再配置や複合化」を含めた本市の学校施設の整備計画の検討を市長部局と連携しながら早急に取り組み効率的、かつ、効果的な教育環境の整備を行うため、今回提案するものです。

提案に至った経緯といたしましては、これまで、教育委員会は令和2年4月に策定された「伊予市学校施設等長寿命化計画」に基づき、老朽化が進む学校施設等の現状を的確に把握しながら長寿命化改修を推進してきました。しかしながら、既存の学校規模をそのまま改修する現行の計画が、児童生徒の減少スピードを考慮すると最善と言えなくなってきたことから、昨年度の教育総合会議において、計画の見直しを提案し、学校教育課の検討の結果、現在施工中の中山小と、早期実施が必須とされている郡中小学校を除き、第1期計画での着手を一時保留とすることとしました。以上につきましては、資料1Pをご参照ください。

資料2Pから5Pをご参照ください。本長寿命化計画の第4章において、学校等施設整備の基本的な方針を示しており、その中で、「今後10年間は現状維持とする」とありますが、同時に「人口分布や社会状況に応じて適宜見直す」とされ、各地域とも「今後、市として学校の再配置・複合化計画を検討し、策定する必要がある。」と再配置や複合化の検討の必要性が示されています。

また、校舎は当然ながら、プールや体育館も多くが老朽施設となり、今後一層の効率的、かつ早急な整備が求められていることから、今回、長寿命化計画に記述された、再配置や複合化の検討時期が来ていると判断し、児童生徒数の推移を考慮した学校の存続、統合や規模の適正化や複合用途化の検討を保護者や地域の意見を集約しながら行う会議を設置すべきとしたも

のです。

ここで、本市の子どもの減少状況について説明させていただきます。資料の6Pをお願いいたします。今年3月末現在の人口調べから算出した、今後の市内小中学校の児童生徒数の予測を示しております。左が小学校、右が中学校となっております。一番下段の黄色で着色している部分を見ていただくとわかりますが、小学校では、今後7年程で30%程度、中学校が10年程で40%程度の児童生徒が減少する見込みとなっております。

また、本日資料を1枚追加しております。当然ながら児童生徒数の減少は、新入生の減少が理由となっておりますので、こちらはこの減少状況を新入生で現した表となっております。例えば、北山崎小学校の欄をご覧ください。北山崎小学校は今年、1年生以外が2学級で、特別支援教室の2学級を合わせると、現在全部で13学級あります。小学校は1学級35人、中学校が1学級、40人が基本となっておりますので、黄色着色部分、2024年の新入生は33人のため1学級、その翌年は41人のため2学級となりますが、その後は毎年35人以下で1学級が続く見通しであることから、2026年以降には北山崎小学校は毎年1学級ずつ減って行く事になり、空き教室が毎年1つずつ出てくるのがわかります。同様に郡中小学校でも2023年には6学級だったものが、2027年には4学級、2030年には3学級となっております。児童生徒数の減少は、全体で見ると30%、40%ですが、その減少は、新入生の減少が続くことに起因してきているという事がわかります。

一方で、南山崎小や中山地域、双海地域においては、元々児童生徒数が少なく、各学年学級数には変更がありませんが、これは児童生徒数が減少していてもエアコン代やプールの水代といった光熱水費や、放送設備や電話設備、校舎や教室の修繕費は生徒数に関わらず、そのまま維持し続けるという事でもありまして、財政面では厳しい状況と言えます。

更に、佐礼谷小学校においては、茶色で着色した部分、2027年を境に入学者数が0の年が発生し、その後も入学者数が0の年が見込まれることから、早急に再配置や複合施設化の検討が必要な状況であることがわかります。

このように、本市の児童生徒数の減少が進む中、逆に施設の維持修繕費用や長寿命化改修費といった施設管理費は老朽化が進むため年々上昇傾向にあり、財政面での適切な教育環境の整備という観点からも、早急な計画策定が求められているところです。

次に、県内他市における取組状況についてご説明します。資料は7Pから8P、7Pが市、8Pが町取組状況でございます。7P、黄色で着色しているところが、現在再配置計画等がある、又は検討中の市で、4市となっております。問1と問2、合併時と現在との比較で、児童生徒の減少をみますと、やはり南予の減少が激しく、合併後、既に一度学校再編により学校数が減少していることがわかります。本市では、平成22年度に1件中学校の統合がありましたが、改めて検討の必要性が生じていると考えております。

続いて、資料の9ページをお願いいたします。学校施設の複合化については、イメージがわ

かないという事もあり、昨年度の教育総合会議で使用したものと同一資料とはなりますが、文科省のホームページから参考資料を引用しましたのでご確認ください。例えば、②中学校と保育所、高齢者福祉施設、商業施設の複合化、また⑦小中学校一体型の校舎の整備など、児童生徒数の減少に伴い、他の施設との複合化という提案が、文科省から推奨されておられます。ただし、他の施設と複合化する場合は、不特定多数の人が出入りするため、安全対策や、建物の用途変更の手続き、それに合わせた改修工事等も必要となり、既存施設をそのまま活用するには課題が多いという点も注意が必要です。

最後、資料10ページでございますが、市の関連する計画の見直しスケジュールと、今後の計画策定の大まかなスケジュールを示しております。

学校は児童生徒の教育のために設置されている施設であり、学校の統合や規模の検討に当たっては児童生徒の教育環境の改善の視点を中心に据えるべきですが、住民から見た学校は、地域社会の将来を担う人材を育てる中核的な場所であるとともに、防災、子育て、地域の交流の場など様々な機能を有している場合も多く、学校づくりは、まちづくりにも密接に関わっています。そのため、検討にあたってはこの点を留意した上で、令和7年度が本市の総合計画の見直し年度となっていることも鑑み、市の総合計画との整合性を図りながら、学校の再配置・複合化計画の検討、策定に早急に取り掛かりたいと考えています。今後、市長部局におかれましては、財政的、人的支援をよろしく願いいたします。以上で説明を終わります。

○武智市長 財政的、人的整備についての協議もあることから、次回からの総合教育会議には、総務部長、財政課長等も呼ぶことが望ましいと思います。さて、伊予市としては、現在、移住にも力を入れています。佐礼谷などに移住する方も、そこに学校があるからこそ安心して来られるというのがあります。また、今後はそういった移住される若い世代が、今後の地域のキーパーソンになってくることも考えられます。財政的なことだけ考えれば、もちろん統廃合の検討は必至であるし、中には、少人数の学校で過ごすより、大規模校で多くの人と関わって過ごす方がいいという保護者の意見もあります。しかし、子どもたちが、小学校時代を地元で過ごし、ふるさとを愛する気持ちを育てることは大切であると思います。

また、大規模校の郡中小学校の改修の現状も、教育委員さんたちにも知っておいていただきたいので説明しますが、仮設プレハブ校舎を立てずに工事するため、工期が10年程度かかります。小学校入学してから、卒業するまで、工事中の環境で生活させるのがいいのか、仮設プレハブを建てて、一気に3、4年で改修してしまうのがいいのか、せっかく教育委員さんが集まっておられるので、そういった点も協議していただき、次の総合計画に反映させたいと思います。

また、翠小学校についても、現在は伊予市内からの校区外通学を認めているが、本来は、日本全国からの通学を認めたらいいと考えています。日本最古の木造校舎をどのようにPRしていくかを含めて検討できたらいいと思います。翠小学校を卒業したら、住所地の港南中や伊予中

に戻ることにありますが、もっと広い視野で子供たちにとって何がいいのかを考えていけたらいいと思っています。

それでは只今、谷仲学校教育課長から説明のあった件につきまして、ご質問・ご意見等がございましたらお受付いたします。

○長見教育委員 地元の翠小学校に関して言わせていただくと、うちの子どもが入学する時は1人だったのが、卒業する時は3倍の3人になりました。校区外通学をしてもらうことによって、本来なら廃校になっている学校が、現在も続いていて、地域の活気もあります。学校に集まる事が無くなると、住民が集まる場がなくなるのではないかと思います。今後も、ぜひ学校を存続させていただきたいと思います。

○武智市長 ありがとうございます。今の長見教育委員からのご意見について、谷仲学校教育課長から何かありますか。

○谷仲学校教育課長 まず、学校を存続させたいと思う気持ちは、長見さんをはじめ地域の共通の思いであると認識しています。それは、当然ながら尊重されるべきであります。その一方で、伊予市は、県内でもトップクラスの大規模校である郡中小学校と、複式学級のある小規模校が混在しているのが特徴であり、施設を管理する立場からすると、大規模校も、小規模校も施設の維持管理費・修繕費は、同じようにかかっているため、今後もその全てを維持管理していくことはどこかの段階で限界がきます。児童生徒数の減少に応じて、学校の統廃合についても視野に入れておくことは、管理者としては当然必要なことだと思っています。長見委員や市長が言われるように、ギリギリまで学校を存続させたいという気持ちは、学校教育課でも同意をすることでありますが、ある一定のラインを決めておく時期が来たとは考えております。以上です。

○武智市長 ありがとうございます。離島の学校ではないため、例えば、児童が1人しかいないのに学校を存続させることは難しいと思います。何人までだと学校を存続できるかというラインを、本日から協議検討し、それをこれから10年間の総合計画にも入れていこうというのが、この総合教育会議の場だと思います。長見教育委員さんにもご理解をいただけたらと思います。続いて、上田教育委員、ご意見をお願いいたします。

○上田教育委員 これは個人の意見ですが、児童数の推移を見ますと、佐礼谷小学校が新入学者0人の年が続いたり、児童数自体も少ないので、今後は統合も視野に検討していく必要があるのではないかと考えます。

○武智市長 上田教育委員のご意見に対して、上岡教育長のご意見をお願いいたします。

○上岡教育長 教育委員会としましては、既存の小中学校をできる限り残す、という形で努力をしてきました。私としましては、令和7年度から、小中学校の適正規模、適正配置の検討委員会をしっかりと作りたいと考えています。ちょうど、コミュニティスクールが全小中学校にできますので、地域や保護者の意見を吸い上げるとともに、中山地区、双海地区をはじめ、学校

の適正配置について、検討委員会でしっかり協議し、令和8年、9年までの3年間で、見直しをもった計画を策定しようと考えています。以上です。

○武智市長 矢野さん、今の上田委員のご意見、そして教育長の答弁を受けて、ご意見はございますか。

○矢野教育長職務代理者 個人的には、私自身も学校の統合を2回経験いたしました。永木小学校と野中小学校。学校がなくなると地域が、いかに寂れるかというのを目の当りにしてきましたので、本当に極限までは学校を存続させてほしいというのが正直な思いです。これまでも言ってきましたが、小学校だけで何とかならないなら、中学校と合わせるなど、何とかして学校を存続させたいというのが私の考えです。その反面、地域の方の思いは、重々理解しておりますが、果たして保護者の意見と合致するのかも分かりませんし、断腸の思いではありますが、教育長からありましたとおり、統廃合について考えて行く時期が来ているのではないかとも思います。

○武智市長 伊予小中は、運動会を合同で行っており、小学校入学から中学卒業まで同じメンバーで過ごすため結束力が強い反面、高校でバラバラになった時に、少し打たれ弱くなっているという意見もあります。佐礼谷、中山等においても、少人数からいきなり大規模校にいった時の踏み外しがあってはいけない、などの意見もあると思います。限界を迎える前に、地域住民ともしっかりと話し合っ、ハード面、ソフト面の両方を考えながら、今後の10年を見越した学校施設の再配置・複合化に関する計画を検討していきたいと思ひます。

この議題については、これによろしいでしょうか。では、次に参ります。

続きまして、協議事項(2)コミュニティ・スクールの推進について、事務局から説明をお願いいたします。

○伊予岡社会教育課課長補佐 コミュニティ・スクールの推進についてご説明します。コミュニティ・スクールの導入については、資料にありますスケジュールに沿って、令和6年度は4月から双海地域4校が他地域に先駆けてコミュニティ・スクールのモデル校としてスタートしており、並行して後発9校での導入準備を進めているところです。今年度中には、市内全13校に学校運営協議会を設置し、校区ごとの様々な教育課題を学校と地域で話し合うための基盤を整えることで、令和7年4月の全域スタートに備えます。

併せて、各校区には、地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を1名配置し、協議会での話し合いの内容を踏まえ、地域の協力者と共に学校活動を支援してまいります。中段の双海地域の先行実施の状況としては、代表として、双海中学校の取り組みをご紹介します。双海中学校では職場体験学習の前に、推進員を通じて地域内の職場に協力依頼を行い、生徒へ仕事の魅力を伝え、地域ぐるみで職場体験学習を実施することにより、生徒のふるさとへの愛着、誇りの醸成が図られ、地域への貢献意識の向上につながっています。このほかにも、校外学習の協力者の手配、校庭の美化活動、通学路の安全確保、登下校時の見守り活動等、コミュ

ニティ・スクールが関わる中で取組まれています。コミュニティ・スクールを推進することで、地域ごとの教育課題を一つひとつ解決し、学校を核とした地域づくりが進展することを目指してまいります。以上で説明を終わります。

○武智市長 みなさんにご意見をいただく前に、資料に企業、NPO法人、地域団体等が出てきますが、現段階で具体的にそれらの団体に担っていただきたいことや計画があればイメージしやすいので、事務局から説明をいただきたいと思います。小笠原社会教育課長、よろしくお願いいたします。

○小笠原社会教育課長 地域学校共同活動の中で、様々な団体や役割をもった方がいらっしやいます。例えば、企業・NPOでいいますと、小学校の総合学習であったり、中学校の職場体験などの協力をしていただきたいと考えています。また、地域住民、地域団体につきましては、地域の奉仕活動や美化活動等でご協力をいただきたいと思います。さらに、文化団体やスポーツ団体については、次の議題にもあります部活動の地域移行等で、児童生徒の受け入れにご協力をいただきたいと考えております。これまで学校中心に行っていた学校教育を、このように様々な立場の方にご協力をいただくことで、地域に愛着を持つ児童生徒の育成に繋がっていくのではないかと考えています。以上です。

○武智市長 ありがとうございます。協議事項(2)コミュニティ・スクールの推進について、さりげない質問でもかまいません。高橋委員さんどうでしょうか。

○高橋教育委員 1点目は、資料のイメージ図にあります、コーディネーターとはどのような方がされるのか、今伊予市内、もしくは愛媛県内にいらっしやるのか、2点目は、コミュニティスクールでした活動というのは、どこまで文科省できめられた学校活動、カリキュラムとして認められるのか教えていただければと思います。

○武智市長 以上の2点について小笠原社会教育課長お願いします。

○小笠原社会教育課長 まず、地域学校共同推進委員（コーディネーター）ですが、双海地域で既に着任いただいている4名の方につきましては、元学校の先生、元学校の用務員をされていた方、あとのお二人は、元地域おこし協力隊の方で、地域とのパイプ役という形で任命されており、例えば遠足の行先や、職場体験の受け入れ先などについて、提案したり調整したりする役割を担っていただいています。日中お仕事されている方は難しいかもしれませんが、自営業の方や、教職員や市役所のOB、OGなどが今後選ばれていくのではないかと考えています。続いて2点目ですが、コミュニティスクールという言葉が私も最初は分かりにくかったのですが、学校で授業をするということではなく、学校運営協議会を設置している学校のことを、コミュニティスクールといいます。地域で行っている活動をどうやって進めていこうか、子どもたちのためにこんな活動をしたいなど、学校運営協議会で校長、教頭や地域の方々10名から15名集まって話し合う場を持つということです。これまでも、似たような組織はありましたが、それをひとつに統合して、地域と学校が一緒に話し合っ、子どもの教育環境を整えてい

くというのがコミュニティスクールです。したがって、学校で授業をするというものではありません。

○武智市長 総合学習の時間のように単位にはならないということですね。高橋委員さんよろしいでしょうか。

○高橋教育委員 職場体験学習は、総合学習などの時間に授業としてカウントされているのではないかと思います。それに関わるものではないのでしょうか。

○武智市長 山口指導主幹お願いいたします。

○山口指導主幹 職場体験を実施するにあたって、地域コーディネーターが、どのような企業が協賛してくれるかを検討したり、学校側が今まで行っていた、受入れの約束の取り付けなどを代替するといった関わり方をしてくれます。また、地域コーディネーターの役割について、県内の事例を申しあげますと、学校事務員をしていた方が、学校の様子も分かっているし、事務仕事にも長けているということで、地域とのパイプ役を担ったり、元大学教授が、人と人との結び方を良く知っているという事で学校と地域のつなぎ役をしている例もあります。これまでは、地域住民と話し合った内容を学校側が頑張っておこなっていたところを、学校運営協議会では、「私たちはこのようなことができますから、一緒に頑張っていきましょう」と全員が当事者意識を持って取り組んで行くような組織となっております。以上です。

○武智市長 谷岡指導主事お願いします。

○谷岡指導主事 高橋委員が、教科のことを言われていたので補足です。職場体験事業は、総合的な学習の時間を使って、授業としてのカウントの中で、補助金等をもって実施しています。以上です。

○武智市長 ありがとうございます。続いて、矢野教育長職務代理者何かありませんか。

○矢野教育長職務代理者 質問ですが、双海町で先行して実施されていると思いますが、校長、教頭以外の教員について、働き方改革の視点から見ると、どのくらい会合に出席しなければならないのか、また様々な活動を学校運営協議会で話し合っていて、例えば、今まで行っていた校庭のそうじについて話し合った結果、もっと良くするためにペンキも塗ろう、サッシも磨こうなどとなった場合、半日でしていた作業が1日になるかもしれません。要するに、今より仕事が増えるといった視点は無いのでしょうか。

○武智市長 小笠原社会教育課長お願いします。

○小笠原社会教育課長 コミュニティスクールのひとつの視点として、学校の先生方の負担を軽減するということがあります。ご存じのとおり、学校には、評議会や評価委員会、児童生徒を守り育てる会など、様々な会がありますが、これらを、できるだけ学校運営協議会に統合していきたいと考えています。先ほども話題にあがりましたが、職場体験についても学校の先生が各企業に連絡を取って調整していたものを、コーディネーターが担うなど、学校に負担をかけないように地域の方の協力のもと学校を運営していくイメージです。まだコミスクは立ち上が



っておりませんが、南伊予校区でいいますと、学校内の草刈りなどは、既に地域の方が担ってくれています。そのようなことで、学校の先生の負担を少しでも軽くするというのを、きちんと制度化して取り組んで行くことがコミュニティスクールというものです。どうしても、校長、教頭には、どうしてもコミスク立ち上げの負担はかかってくると思いますが、熟議等は、地域の方々主導で進めて行けたらと考えております。

○武智市長 矢野教育長職務代理者、いかがでしょうか。

○矢野教育長職務代理者 職場体験の調整等は、ぜひしていただけたらと思います。ただ、仕事の内容によっては、先生方は参加しなくていいですよというのをはっきりしておいてくれたら気持ち的にありがたいと思います。校長も、教頭も、地域の方も参加しているから、やっぱり参加しないといけないなという流れになるのではないかと危惧しています。そこは、はっきりした上でスタートしたいと思うし、私自身もコミスクに関わるとしますので、きちんと整理をしてからスタートさせたいと思います。以上です。

○武智市長 上岡教育長いかがですか。

○上岡教育長 コミスクは、簡単に言えば、今まで学校の中で協議して校長が決定していたことを、地域の方も含めて協議をし決定する機関になります。それだけの事なので、学校にそれほど負担はないと思います。むしろ校長がひとりで責任を負っていたものを、地域の人も含めて協議決定していく事になり、全国での事例等を見ても、学校側、教員側の負担が減っております。また、双海地域においても各学校とも順調にいったとの報告を受けております。

また、1番目の議題にもありましたが、学校の統廃合、又は校区の廃止などについても、コミスクを通してしっかりと地域住民の意見を聞いて計画を立てていきたいと考えております。以上です。

○武智市長 長見教育委員どうぞ。

○長見教育委員 矢野委員が発言された働き方改革の視点からの、教職員の立ち位置についてですが、私自身、学校運営協議会の委員になっていきますので、少しお話をさせていただきます。翠小学校に関しては、今までしてきたことがそのままコミュニティスクールではないかと思っています。今まで、学校側から直接、こんな手伝いをしてくれませんかと言われたことを、PTAで手伝っていましたが、それを学校運営協議会の中で話し合っ、PTAだけではなく地域の方が手伝うようになってきました。その話し合いの中には、校長、教頭以外の先生は参加されていません。どのような協議をしているかという、まず、学校の先生方からのお手伝いの要望があげられました。例えばミシンの授業の時、得意な人に手伝って欲しい、習字の時にフォローが欲しいなど、それぞれの分野で得意な人を募って欲しいという要望です。PTAだけではまかなえない部分も、地域の方々と話し合うことで、専門分野の方を見つけることができとても良かったと思えました。以上です。

○武智市長 ありがとうございます。続いて上田教育委員、いかがですか。

○上田教育委員 地域で人脈のある方を引き込んでおけば、学校の先生のお手伝いもいろいろできるので、そのリーダーとなる人材を確保することが大切だと思いました。

○武智市長 ありがとうございます。さらに、地域を担うリーダー、それから、その後継者づくりも大切だと思いました。それでは、コミスクの総括として、上岡教育長お願いします。

○上岡教育長 実施にあたっては、行政から学校へ、こうしてくださいと下ろしてもよかったです。様々な方と協議をしながら、2年間かけて学校主体でできるような形にもっていております。学校側も、時間をかけてしっかり勉強しながら、校長も地域の人脈を生かしながら進めておりますので、次年度からもスムーズに導入できるのではないかと思います。昔から、開けた学校ということが言われていますが、伊予市の場合も、コミュニティスクールが設置された段階で、ひらけた学校になっていくのではないかと考えています。したがって、各地区の教育委員の皆さまにも力を借りながら、コミュニティスクールの設置、運営に向けて邁進していきたいと思っております。以上です。

○武智市長 ありがとうございます。ここで、暫時休憩といたします。再開は16時からといたします。

— 暫時休憩 —

○武智市長 続いて、協議事項(3) 部活動の地域移行について、事務局から説明をお願いいたします。

○赤石学校教育課課長補佐 部活動の地域移行について、説明します。資料3をご覧ください。こちらは令和5年9月に県教委より発出された「公立中学校の部活動改革に係る愛媛県推進計画」の概要です。「基本的な考え方」では、新たに地域クラブ活動を整備する必要性、また、地域の実情に応じ、関係者の共通理解の下、できるところから取組を進めていくことについて記載されています。

「2 取組の方向性」では、2行目からの部分で、直ちに体制を整備することが困難な場合には、当面、学校部活動の地域連携として、合同部活動も導入する。また、6行目には、部活動の地域移行については、まずは休日の学校部活動から、地域や学校の実情等にも十分に配慮しつつ段階的に進めていく。合意形成や条件整備等のために時間を要することも想定されるが、できるところから取り組んでいく、と記載されています。

本市では、令和4年12月に「伊予市部活動の地域移行に関する検討会議」を設置して以来、4年度に2回、5年度に3回、今年度は2回と、これまでに7回の会議を開催してまいりました。本年6月には「伊予市立中学校の部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針」を作成し、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間と位置付け、地域スポーツ・文化芸術環境整備のための取組を重点的に行うこととして、まず休日の学校部活動の段階的な地域連携・地域移行から取り組んでいるところです。

また、県の推進計画を参考に、伊予市立中学校の部活動地域移行計画（ロードマップ）を作成し公表しております。さらに、本年度の検討会議において次年度以降の目指す姿（ゴールイメージ）について具体的な協議を進めております。

A3版の資料をご覧ください、こちらが「伊予市立中学校の部活動地域移行計画（ロードマップ）」です。この計画では、令和8年度に休日の部活動の地域移行を完了させる、令和11年度に平日の部活動の地域移行も完了させることを目標としております。

令和7年度は、部活動（地域クラブ）事業において、地域クラブ活動の実証事業の実施、学校部活動の拠点校方式、合同部活動の充実を目指し活動を行います。

その中でも、地域間の交通手段の確保では部活動の合同部活動、拠点校部活動により移動の必要性がある生徒に対し、輸送手段の確保を行うことを想定しております。具体的には、バスやタクシーなどを使って、まずは中山中と港南中、伊予中間の輸送手段を確保することを検討しております。これは、あらゆる生徒に、地域を超えて等しく運動の場を提供するために必要な取組と考えております。学校教育課の説明は、以上です。

○伊予岡社会教育課課長補佐 続きます、社会教育課として説明いたします。

社会教育課としては、部活動地域移行の受け先として、総合型地域スポーツクラブの活用について調査、検討をしています。

現在、市内において、活動しているクラブは1団体（郡中スポレククラブ）ですが、高齢者による小規模な活動が主であることから、部活動地域移行先には適していない状況です。

一方、本年2月、しおさい公園の指定管理者である㈱SASAERUが組織内に、部活動の受け皿として地域活動を行うことを目的とした、一般社団法人を立ち上げており、地域クラブの立ち上げに向けて準備を進めているところであります。

当課としましては、休日の部活動の受け入れ先と指導者の確保を最優先事項と考えており、スポーツ少年団等との連携強化に取り組んでおりますが、今年度2回実施した部活動検討会議内において、愛媛県保健体育課より地域クラブの活用について助言をいただいたこともあり、一般社団法人SASAERUとの協働、地域おこし協力隊の導入などにより、部活動の地域移行を後押しする取組みを計画しております。

地域おこし協力隊については、地域移行を支援するかたわら、3つの分野を担当してもらう予定で、一人目は、伊予市スポーツ協会の一体となったスポーツ振興事業の実施を、二人目は、ビーチバレーボール普及活動の実施を、最後、三人目は、総合型地域スポーツクラブの定着運営に向けた活動に携わってほしいと考えています。

地域おこし協力隊の予算化や募集などは少し先にはなりますが、3年間の任期後は、伊予市を拠点とした活動を行うことを着任条件として掲げ、平日の部活動の移行についても対応できるような体制づくりについても研究を続けてまいります。

当該事業につきましては、教育委員会事務局の重要施策として学校教育課と社会教育課合

同で取り組みたいと考えておりますので、格別の御理解、御高配を賜りますようお願いいたします。

○武智市長 ただいま、事務局のあった内容について、ご質問、ご意見等がありますか。

○矢野教育長職務代理者 この地域移行をする場合、移動手段は、これからどのようになるのか、保護者としても気になる場所だと思います。中山中学校から港南中学校への移動は、現在は、保護者がしていると思うけど、今後はどういう方向性ですすめるのか、お伺いしたいです。

○武智市長 赤石学校教育課課長補佐お願いします。

○赤石学校教育課課長補佐 現在は、保護者が送迎をしております。今後は、人数に応じて、ジャンボタクシー等での送迎を考えています。

○武智市長 今後は、部活動地域移行に係る送迎については、公費でやっていくよう考えています。例えば現在も、空いている公用車やバスを貸していただけたら送迎は自分たちでやります、というような声の一部地域からもあります。色々な方法を検討しながら、子どもたちがやりたい部活動をやっていけるようにしていきたいと考えています。谷仲学校教育課長、補足はありますか。

○谷仲学校教育課長 先ほどの担当の説明でもありましたが、部活動の合同実施、又は拠点校方式により移動の必要性がある生徒に対し、輸送手段の確保を行うことを検討しております。

ただ、輸送手段の確保においては民間委託を行うにしても、車両確保や昨今の運転手不足という課題があり、直ちに来年度から実施可能というわけではない点については、ご理解願います。以上です。

○武智市長 ありがとうございます。続いて、長見教育委員いかがでしょうか。

○長見教育委員 部活動の問題は、指導者の質が、子供たちにとっても、影響が大きいと感じます。勝ちたいと思う子供達は、そういった指導者の確保も、課題になるのではと思います。地域おこし協力隊の活用も、今はじめて聞きましたが、積極的に活用して、良い方向に向かえばいいと思います。

○武智市長 ありがとうございます。上田教育委員何かご意見はございますか。

○上田教育委員 感想になりますが、先日、中山中学校と伊予中学校が合同でプレーしている姿を見て、生徒がのびのびと楽しくプレーできていると感じました。子ども達が好きなスポーツ、又は吹奏楽等の文化部の活動が出来ていることが、拠点校の良いところだと思います。

○武智市長 ありがとうございます。山口指導主幹、谷岡指導主事補足があればお願いします。

○谷岡指導主事 この部活動の地域移行は、教職員の負担軽減につながっていくような取り組みを目指しており、休日の部活動がなくなる限りは、時間外在校等時間、要するに勤務時間以外の時間を80時間以内におさめることは不可能であるため、地域クラブ活動の創設は、教

職員の働き方改革を進めていく上でも必須となります。伊予市の子供たちのためにも地域クラブ活動の実施について、取り組みを推進していきたいと考えています。

○山口指導主幹 部活動の地域移行に限らず、子供達の満足や笑顔が、先生方の満足につながるのではと考えています。先ほど、谷岡からもありましたが、小学校の教員に比べて中学校の教員の時間外勤務が非常に長くなっています。先生方が働きがいのある学校になるよう、教育委員会としてもできる取り組みを進めていきます。

○武智市長 ありがとうございます。まだまだ言い足りない点があるかと思いますが、お時間の都合もありますので、最後に上岡教育長から一言お願い致します。

○上岡教育長 子供たちには平等性を持って、部活動をさせるよう、教育委員会として進めていきたいと考えています。

また、不登校問題や校区制についての議論も、今後は検討していくべきと考えておりますし、今回の協議題である、人口減少に伴う学校規模の見直しや再配置に係る検討は、移住やまちづくりといった、今後、市が行っていく人口増を目指した施策との整合性も含めて、他の部署の協力を得ながら全庁的に考えていきたいので、今後とも市長部局とともに、歩んでいけたらと考えます。本日は、ありがとうございます。

○武智市長 皆様からいただいたご意見、ありがとうございます。ただいま、頂いたご意見につきましては、今後の参考として、検討して参りたいと思います。

それでは、本日の議題は、全て終了いたしました。本日は、ご多忙にもかかわらず、ご出席賜り、貴重なご審議を頂きまして、ありがとうございます。教育委員さんをはじめ、皆さまのご協力に感謝を申し上げ、議長の任を解かせて頂きますありがとうございます。

○窪田事務局長 それでは、以上で、令和6年度第1回伊予市総合教育会議を閉会いたします。ご起立をお願いします。一同、礼。

午後4時40分 閉会